

バスケットボール戦評記入用紙

大会 (新人 関東 インターハイ)  
 試合 (決勝・準決勝・準々決勝・決勝リーグ)  
 日時 5月 20 日 土 曜日 第 2 試合 時刻 11:30  
 記入者名 祐木 毅

A チーム	得点		得点	B チーム
<u>昌平 高校</u>	<u>85</u>	(	<u>67</u>	<u>埼玉栄 高校</u>

戦評

第1P、両チームともマンツーマンディフェンスでスタートする。最初にリズムを掴んだのは昌平。#8の2対2のピックアンドロールからのジャンプシュート、3Pシュートでリードする。出だしは昌平のディフェンスをうまく攻められない埼玉栄はタイムアウトを取る。タイムアウト後、#5のジャンプシュートが連続して決まり何とか食らいつく。リズムが良くなり、#4が3Pシュート、ドライブインシュートで点差を詰める。

第2P、出だしは昌平#4の速攻からレイアップシュート、埼玉栄#4のジャンプシュートで互角の戦いになる。中盤に埼玉栄のセンター#12がファールトラブルでベンチに下がると、昌平はセンター#6にボールを集めて得点をする。昌平#6が完全にゴール下を支配し、点差が開く。試合は昌平のペースで進み、前半を終了する。

第3P、流れを変えたい埼玉栄は2-3ゾーンで巻き返しをはかる。しかし昌平は#8のアシストパスから#7がゴール下で合わせ得点する。外からも#7が3Pシュートを沈め、15点差をつけたところで、埼玉栄がタイムアウト。苦しい展開の埼玉栄であったが、#10が奮闘する。3Pシュートを4本連続で決めて流れを引き寄せる。そこからさらに#4、#10が3Pシュートを決めて3点差に縮める。しかし昌平も#6のオフenseリバウンドからのシュート、#4の3Pシュートで62-52と点差を再び広げて第3Pを終了する。

第4P、出だしで点差を詰めておきたい埼玉栄であったが、昌平#13に3Pシュートを許してしまう。さらに昌平#8の1対1からのジャンプシュート、3Pシュートが決まり点差が広がる20点差になったところで埼玉栄がタイムアウト。タイムアウト後も埼玉栄は積極的に攻防をしかけるが、昌平が落ち着いてこれをかわす。埼玉栄は最後まで粘りを見せるが、流れを変えることができずに試合終了となった。